

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 791 号	氏名	賀来 敬仁
学位審査委員	主査	西田 教行	
	副査	弦本 敏行	
	副査	尾崎 誠	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、バンコマイシン耐性腸球菌やメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の治療薬として用いられているオキサゾリジノン系抗菌剤リネゾリドの、気道上皮細胞に対するムチン過剰産生抑制作用を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 MRSA に対する直接的な抑制効果を除外するため、菌体を除去した MRSA 培養上清液を用い、ムチン産生能が知られている気道上皮培養細胞モデル (NIC-H292) を刺激し、その際の細胞内シグナル因子の挙動および気道内ムチンの主な成分である MUC5AC の mRNA の発現に与えるリネゾリドの影響を解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、リネゾリドが MUC5AC の発現と過剰分泌を抑制すること、MUC5AC 発現に関与する ERK1/2 のリン酸化を抑制することを見出している。気道感染症における MUC5AC 過剰分泌は病態および予後に関わる因子であり、今回の実験データから MRSA 気道感染症におけるリネゾリド選択の意義が裏付けられたと言える。今後の臨床感染症研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は呼吸器感染症研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			